



弁城小6年
細川 眞伸 さん
ぼくにとって

主な内容

ぼくにとって家族は、一緒にいると笑顔になったりいつでも心が通じ、安心できたりする大切な存在です。ぼくは、家族がいなくなったら強く生きていくことができないと思います。ぼくの家族は、お父さん、お母さん、お姉ちゃん、弟、そしてぼくの5人です。この家族がいれば、楽しいことがすごく増えます。また、いやなことがあっても心の支えになってくれます。今のぼくは家族がいなければ正しい生きていけません。自分が家族のことをおもうのは大切ですが、自分が家族におもわれることも大切です。ぼくは、家族のみんなから大切におもわれていると思います。お父さんとお母さんは、ぼくがうれしいときには一緒に喜んでくれ、悲しいときには優しくはげましてくれます。ぼくは家族の愛情を感じています。ぼくは今、バスケットボールを習っています。大会でぼくたちのチームは決勝まで進みましたが、惨敗してしまいました。ぼくはすごく悔しくて、泣いて、ずっと落ちこんでいました。そのときお父さんは「そんなに落ちこむなよ」と、お母さんは「次があるよ。またがんばり」とはげましてくれました。ぼくは、この言葉で元気が出たし、もう一度挑戦しようと勇気をもらいました。そして、お父さんとお母さんの愛情を感じました。ぼくにとって、家族は心の支えであり、とても大切な存在です。いつもはあまり感謝の気持ちを伝えられていないけど、家族にはすごく感謝しています。お父さん、お母さん、お姉ちゃん、あらた、ありがとう。



金田小6年
吉田 萌笑 さん
薬物乱用について

主な内容

ダメ、絶対ダメ。これが私の「薬物乱用」についての考えです。皆さんは「薬物乱用」という言葉を聞いてどんなことを考えますか？私は、怖いイメージしかありません。それは、薬物を乱用することで自分や他人を傷つけてしまうからです。薬物乱用について学習するまでは、その言葉の意味がよくわかりませんでした。「なぜ薬物を乱用するのか、薬物を乱用するとどんな悪いことがあるのか」を知るきっかけとなったのが、5年生のときに聞いた福岡県立大の先生のシンナーを使った実験や実際にあった話をもとにした講演でした。シンナーは体に入ると脳などを溶かしていくのです。ほかにも、内臓を悪くしたり、体の成長を阻害したり、意識障害を起こしたりします。また、依存性が強くやめられなくなるそうです。6年生になり保健の学習で薬物乱用や、シンナーだけでなく覚せい剤や危険ドラッグの害についても学習しました。「身近にある、体に害がある、依存性が強くやめられない」などは共通の怖さであり、他人に害を及ぼすことも知りました。「他人に迷惑をかけない程度だったら使用してもいいんじゃないか」と思う人もいるかもしれませんが、「少しでもいいから」と言って使用していたら、やがて自分の意志ではやめられなくなってしまうのです。このようなことから、薬物乱用は反対です。ダメ、絶対ダメ。私たち一人一人がこの気持ちを持ち続け、薬物乱用のない社会を作れたらいいと思います。



市場小6年
木月 桃花 さん
分団長として…

主な内容

わたしの通っている市場小学校は、ずっと分団登校が受け継がれてきています。高学年が低学年のお世話をしながら学校へ行くのです。わたしは分団長にさせていただきましたが、なかなか分団がまとまりませんでした。「どうしたらまとまりが良くなるだろう」と何日間か考え続けた答えは、「分団のみんなが仲良くなる」と言うことでした。次の日から「おはよう」はもちろん、学校で起こったいろいろな出来事を話すように心がけました。すると分団のみんなも話を聞かせてくれるようになり、まとまって時間通りに学校に行けるようになりました。答えがでるまでは、分団がまとまらないのはみんなのせいだと思っていました。でも、やっぱり自分のせいだと思い直した時、分団がよりよくなるための方法がどんどん浮かんできたのです。「みんなのせい」という考えを「自分のせい」と思い直した時、分団がもっともっと楽しくなっていくことを学びました。そして、分団長になったことで、自分の中に「責任感」が芽生えたように思います。私が思う分団長としての「責任感」とは、みんなが安全に楽しく学校に通えるように、これからも努力を続けていくことだと思います。私は、分団登校は「責任感とは何か」に気づかせてくれる素晴らしい伝統だと思います。皆さんも一度、「責任感とは何だろう」と考えてみて行動してみてください。何か良いことが絶対起こります。私は、そう信じています。



伊方小6年
山元 団十郎 さん
あいさつでつながる笑顔

主な内容

み さんは、毎日元気よくあいさつをしていますか。ぼくは、笑顔が生まれる「おはよう！」というあいさつが大好きです。ぼくは、あいさつは普通のことだと思っていました。しかし、「あいさつはとても大切なことだ、もっともっと広めたい」と思うきっかけとなる出来事がありました。それは、伊方小学校で取り組んだ「あいさつ運動」です。ぼくが児童会として校門に立ってみんなに元気よくあいさつすると、一年生が笑顔であいさつを返してくれてとてもうれしい気持ちになりました。でも、時間がたつにつれ、笑顔で元気にあいさつを返してくれる人ばかりではないと感じ始めました。「あいさつ運動」を続ける中で、笑顔であいさつを返してくれない人がなかなか減らないことにあせりを感じてきました。しかしある日、低学年の先生が、「団十郎君の元気なあいさつが教室まで聞こえるよ。団十郎君のまねして元気にあいさつをしているよ」と声をかけてくれたのです。それを聞いて、「あいさつ運動」は確実に広がっていると実感し、あせる気持ちがすっとなくなってきました。「おはよう！」で、朝出会った一人の友だちに元気で笑顔をあてまえませんか。ぼくは、一人一人のあいさつがつながることによって笑顔もつながっていくことを学びました。これが日本全国の人につながる事が夢です。その一歩として、これからも気持ちのこもったあいさつを続けようと思います。

※各発表者の文章は原文のままではなく、主張の主な内容を要約して掲載していますのでご了承ください。

私たちの 想いを込めて。

第9回福智町少年の主張大会
福智町青少年育成町民会議 主催

次代を担う福智町の子どもたちが、社会の動きや身近なことなどに対して感じた自分の心を表現する「少年の主張大会」が、12月7日に公民館金田分館で開かれました。ここで、町内小・中学8校の代表者が壇上で堂々と発表した内容を紹介します。

第9回福智町少年の主張大会



↑ 主張を発表した各校の代表者と、当日司会を務めた細川末久さん(方城中・後列左)。